

コーディネーター

## コーディネーターのねらい…は？

千田 彰

## ●抄 録●

日本の歯科界の将来について「憂える」意見が多々ある。70年代にも歯科界は、社会から攻撃されるなどの混乱を経験している。しかしこれらとて、「その先」に期待をもつことができたように思うが、現在直面する状況は、この先を期待するどころか、想像すら困難なものである。

本シンポジウムでは、歯学教育面、社会変遷に伴う歯科医療形態のパラダイムシフトおよび歯科医師の需給問題に関連した現状と将来が、シンポジスト、フロアや特別指名発言者によっても貴重な意見が出され、活発な議論が行われた。コーディネーターとして、歯科医師の需給問題解決、数の調整のみではなく、一方通行の修復治療に偏重した歯科医療から脱却し、患者を中心とした管理型医療に変わるべきであろうという意見を述べた。

キーワード：歯科医師の需給問題、管理型歯科医療、検査と診断

日本の歯科界の現状、将来については悲観的な意見、考え方が多いように思われる。70年代には「歯科110番」が設けられるなど、一部に「乱診乱療」が糾弾され、歯科界の立場がきわめて悪くなったこともあるが、総体的には「上向き」「右肩上がり」で、将来には希望がもてるものであった。しかしながら現在の状況は、歯科医師数の需給調整に象徴される通り、歯科界そのものの縮小を予感させるほど危機感を覚えるものである。

著者は、私立の歯科医療機関で勤務しているが、「歯科医師数を減らす」「歯科医師は過剰でワーキングプア」などというネガティブな「キャンペーン」に煽られ、この数年は入学志願者の著しい減少に大学当局者、同僚らとともに頭を抱えている。志願者の低下

は、入学する学生の質の低下を意味し、専門教育のレベルを下げざるを得なくなることが危惧されている。しかしその現実とは真逆に、教育レベル向上のためという「CBT、OSCEへの取り組み」、臨床実習での「自験（患者実習）経験数を増加させる」という要求、1年間の「研修医教育（現実には医療機関が多くを負担している）負担」などが新たに医療機関に課せられている。また政府は、歯科医療の質の担保として、毎年概ね3,200名の卒業歯科学生のうち、2,000名のみを国家試験に合格させる方針をとり始めている。各医療機関では「国家試験対策」という、本来の歯科医学教育からは、かけ離れた対応を強いられ、多くの教員は「歯科医師の質の担保」ができるのかという疑問を抱いている。確かに歯科医師数の需給調整は、国民目線で考えなければならないが、「単なる数字合わせ」は、上述の現実を考えると却って負のスパイラルを大きくするのではなかろうか。

一方、日本の人口動態は、世界に先駆け超高齢社会となっている。また長年の歯科界の努力が実り、8020達成率が目標に達し（図1）、歯科医療に託される疾患病態が大きく変化し、さらに「健康長寿」を如何に



※冬期学会コーディネーター

(せんだ・あきら)  
愛知学院大学歯学部保存修復学講座 教授  
ICD日本会 理事・ICD国際理事

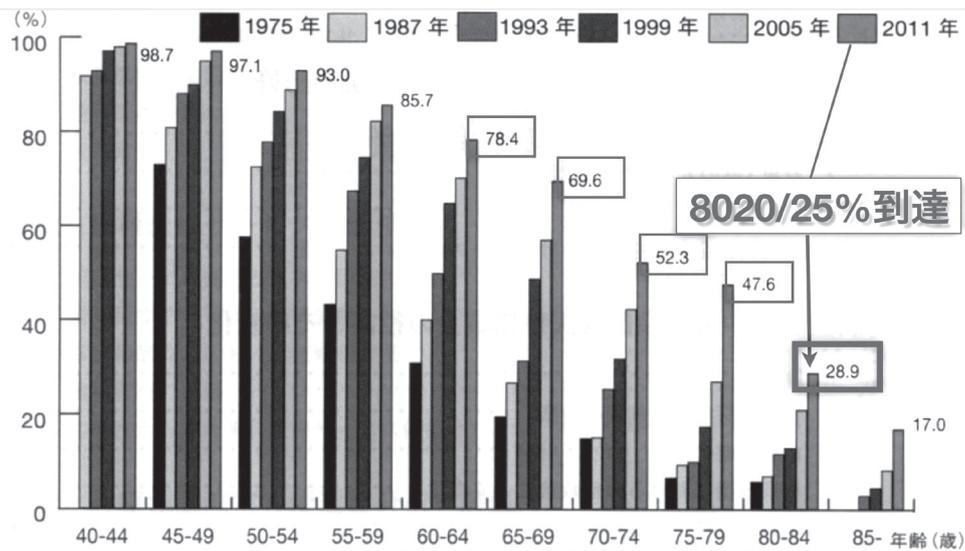


図1 8020達成率は、目標に達して80～84歳で28.9%となっている (歯科疾患実態調査・歯科医療白書2013年度版を改変)  
 fig.1 The “8020 campaign (20 teeth at age of 80-year)” of Japanese dentistry has been completed now (set point : 25%), and it is now 28.8% reported in 2011

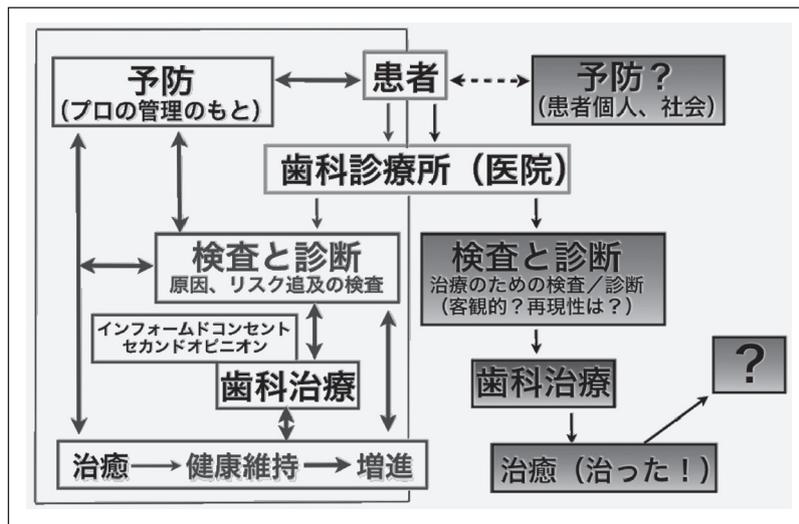


図2 これまでの修復治療のみに偏った一方通行の歯科医医療 (図右側) から、患者管理 (図左側) による医療へと移行すべきではないか  
 fig.2 A concept of conventional eccentric restorative “one-way” dental (Right) should be changed a direction to more patient control procedures (Left)

支えるかが歯科医療の新たな責務となっている。これまでの歯科医療の発展の基盤となってきた修復治療のみではこのような社会、疾患構造の変化に追いつて行けないのは自明の現実である。著者は、このような状況から、歯科医療の真のゴールであるはずの人々の健康維持、増進を目指した、人々を「病気にさせない」医療のための患者・疾患管理型歯科医療への進路変更をすべきであろうと考えている (図2)。私たちは、人々

が「病」になることを「待つ」のではなく、より積極的に人々を「病」から守るべき立場にあるはずである。「cureからcareへ」と叫ばれてかなりの時間を経た。歯科界が新たな領域、真の領域により積極的に取り組むなら、私たちの責任範囲が大いに広がり、その需給問題にも新たな道が開くのではなからうか。

しかしながら、この管理型医療を推進して行くためには、歯科医療のなかで、医科と比べてかなり遅れて

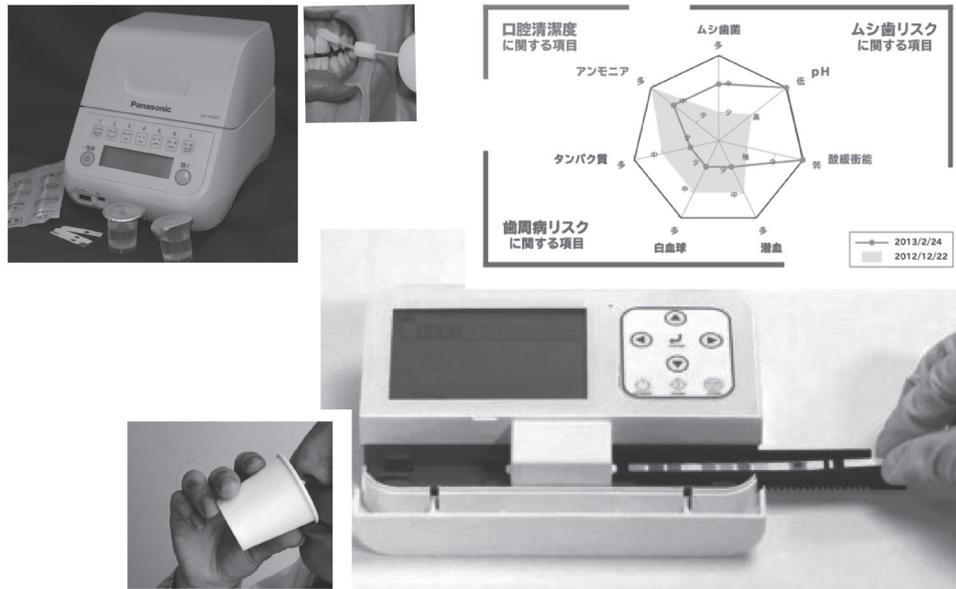


図3 著者らが取り組んでいる管理医療のための検査機器（細菌カウンタ、多項目唾液検査）

fig.3 Newly developed and developing diagnostic examination equipment (Bacteria Counter (left), Multiple Saliva Test (right)). The authors have been involved developing those equipment necessary for patient control dentistry

いると言わざるを得ない検査や診断分野について、その開発を喫緊の課題として取り組み、発展させる必要がある(図3)。真の「かかりつけ歯科医師・医療」、「人々の生涯にお付き合いできる歯科医師・医療」へと向かうには、客観的で再現性のある、そして精度に優れた検査データに基づいた患者教育、管理が実施されねばならない。

本シンポジウムでは、歯科医療の将来の発展に向けて、チーム医療教育の充実と先端歯学研究の推進、口

腔機能維持・回復、地域包括ケアへの取り組み、歯科医師の医療者としての自覚と認識などが各シンポジストから提言された。特別発言者やフロアからも質問、提言があり、予定時間を延長しての討論となった。来年度もこのテーマでのシンポジウムが企画されることとなったようで、歯科界の将来に夢を抱くために、私たちが今、知らなければならないこと、成さねばならぬことを引き続き考えて行きたい。

## An Expectation of the Coordinator on this Symposium?

Akira SENDA, D.D.S., Ph.D., F.I.C.D

*Professor and Chair, Department of Operative Dentistry  
School of Dentistry, Aichi Gakuin University  
Councilor: ICD Japan Section, International Councilor: ICD*

There have been a lot of pessimistic views around the future of Japanese dentistry. In '70s, Japanese dentistry once faced at quite serious and difficult condition, and was criticized severely by the society. However, even though, at the time, it seemed that they could be able to have a dream in advance. The problems that we are now facing in Japan seem to be much more severe than those in past, and unfortunately we have not had any future views nor expectations.

Accordingly, in this symposium, present status and prospective future of dentistry in Japan, such as a paradigm shift in dental care, drastic changes in dental education system, political control of supply/demand balance of dentists and dental services and others were discussed between presenters, moderators and participants. All discussions were quite enthusiastic and significant. As a coordinator of the symposium, I have proposed that it may a time for changing the direction of dentistry from eccentric way that has focused only restorative or reparative procedures to health care and promotion that may be accomplished by “patient control and/or education” dentistry.

**Key words :** Issues of supply/demand balance of number of dentists, Patient control dentistry, Examination/Diagnosis